

ZAIDAN NEWS LETTER

SEP/2014

VOL.22

HITACHI

Inspire the Next

- ◆公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
- ◆公益財団法人 日立環境財団
- ◆公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
- ◆公益財団法人 日立国際奨学財団
- ◆公益財団法人 日立みらい財団
- ◆日立ファウンデーション(米国)

ZAIDAN Report

日立みらい財団

● 日立みらい財団の「犯罪と非行」誌 創刊45周年記念

当財団が発行している「犯罪と非行」誌が本年度で創刊45周年を迎えました。1969年、犯罪や非行のない地域社会づくりに資することを目標に創刊され、現在では、年2回(1回あたり約3,000部)の発行ですが、大学の研究者をはじめ、刑事司法の実務家、医療や福祉関係の多くの読者やマスコミ関係や大学図書館などでも広く活用され今日に至っております。

ここで45年前を振り返り、本財団の前身である、当時の財団法人青少年福祉センター理事長の「犯罪と非行」誌創刊号での「御挨拶」を紹介します。



創刊号表紙



満百歳の竹内氏。百歳まで理事長を務める。

御挨拶

我が国経済の急激な発展と反対に、我が国の将来を担うべき青少年の非行や犯罪が急増しているなげかわしい世相に直面し何ともいえない不安に駆られていた時分に、偶然の機会であったが法務省の前保護局長の本位田さんとこの気分につき話したところ、更生保護の仕事を手伝っては下さらぬかとの話が縁となり、財団法人青少年福祉センター*が発足することになり、既に二年有余りを経過しました。

看板は掛けては見ましたが、その間、大した仕事も出来ず、何とも汗顔の至りです。実に難しい仕事です。自分の年齢も八十路の坂を登りかけて来た今日此の頃、誠に日暮れて道遠しの感じで一杯です。明治の末年から創業直後の日立の厄介になり殆んど一生を機械の製造と販売という特殊な仕事に没頭していた自分には、更生保護関係の仕事は未知の世界で何から手を付けたらよいものかなかなか見当も付きませんでした。その間、御当局とも御相談して経験の深い方々顧問をお願いして、自分で出来そうな事からお手伝いを始めました。自分個人としては更生保護の仕事に体当たりされている保護観察官や保護司の方々にお目に掛り、ご苦労の実情を拝聴したり、また保護施設では主幹の方々の情熱溢れてお世話をされるお姿を見て世の谷間にこんな美しい清らかな花を咲かせている世界もあったのかと、今更ながら驚きと敬服とで自然に頭が下る思いに浸った事も度々ありました。自分自身として何は出来なくともこの様な様に心からの感謝でご挨拶が出来、お互いに喜び合った

財団法人 青少年福祉センター* 理事長 竹内亀次郎

事を有難い事であると独喜んでおります。最近BBS運動で活躍しておられる青年諸君のあの真剣な気合にはいたく心を打たれ、徒らに世相の悪化を悲観しているばかりが能ではないと老の心に鞭打つのであります。

この度、財団関係一同が事業活動の一環として総合誌を発行し志を同じくする諸方面の方々の共通の発言の場を作り、広く青少年の福祉に寄与して見たいと協議一決し、ここに季刊誌「犯罪と非行」を発行する運びとなり、皆様のお手もとへ創刊号をお届け申し上げます。号を重ねるごとに内容も改善し、多少とも更生保護関係の仕事に役立ち得る事になり得れば当財団一同の望外の喜びであります。何卒発行の趣旨を諒知願ひまして、青少年福祉増進の為の資料をお寄せ下され、これを共通の発言の場としてご利用下さる事を切にお願い申し上げます。とかくこの様な雑誌大衆誌と異なり、興味本位ではないので永続如何を私は懸念しないでもありませんが、関係者は熱意に燃えておりますので、皆様のご声援で永続させて頂きたいと思っております。

以上私の心境を述べると同時に季刊誌発行のご挨拶と致します。

誌名がいささかドギツイ様な感じも致しますが、大方のご注意によりもう少し軟らかい名に変えても良いとも思っております。

昭和44年8月の創刊号より(当時の原文をそのまま掲載)

*公益財団法人日立みらい財団の前身(竹内亀次郎 当時(株)日立製作所 顧問)

日立環境財団

●第41回「環境賞」表彰式を開催しました

6月11日(水)、経団連ホールにて、第41回「環境賞」の表彰式を開催しました。

今年度の受賞者は、環境大臣賞・優秀賞1件が選ばれたほか、優秀賞1件、優良賞3件、審査委員特別賞1件の右記6団体です。

近年の授賞対象は、国内だけでなく、世界的な環境対策に貢献する成果が増えてきており、今年は途上国での環境対策への貢献に高い評価が集まりました。

12月発行予定の「季刊 環境研究」NO.176号に、全てのテーマの授賞論文を掲載しますので、こちらもぜひご覧ください。



●「環境サイエンスカフェ」開催報告

第22回 生物多様性はなぜ大切か -「私」とは何かを通して考える-
講師：本川 達雄さん(東京工業大学 名誉教授)

日時：2014年7月9日(水) 18:30~

参加者：40名

「歌う生物学者」本川達雄さんを講師に招き、生物多様性の重要性について、本川さん作詞作曲の歌を交えながらお話いただきました。



第41回「環境賞」受賞一覧(敬称略)

【環境大臣賞・優秀賞】

◆ 風による土壌侵食の抑制と収量向上を両立させる砂漠化対処技術
総合地球環境学研究所 田中 樹、首都大学東京 伊ヶ崎 健大、
京都大学大学院地球環境学堂 真常 仁志、
国際農林水産業研究センター 飛田 哲

【優秀賞】

◆ アジア地域に適したコミュニティ排水処理システムの開発と普及
特定非営利活動法人APEX 田中 直

【優良賞】

◆ 地図環境リスク評価システムの開発
東北大学大学院環境科学研究所 駒井 武、
産業技術総合研究所地図資源環境研究部門 川辺 能成、坂本 靖英

◆ 英虞湾の沿岸遊休地を干潟に戻すプロジェクト
英虞湾の干潟再生プロジェクトグループ
(三重県水産研究所、志摩市、三重県農林水産部伊勢農林水産事務所
農地海岸保全管理課、三重県農林水産部水産基盤整備課、
三重県農林水産部水産資源課、株式会社合歡の郷、
ホテル近鉄アクアヴィラ伊勢志摩)

◆ 大都市における人工地盤上の大規模緑地創出
株式会社大林組、南海電気鉄道株式会社

【審査委員会特別賞】

◆ 気仙沼市舞根(もうね)地区における海と生きるまちづくりの実践
特定非営利活動法人森は海の恋人 畠山 重篤

環境サイエンスカフェの内容は、講演録の全文を財団ホームページに掲載しているほか、facebookでは開催スケジュールの最新情報や会場の様子を写真で紹介しています。

また、今回の本川さんによる講演中の歌は財団YouTubeチャンネルに公開しています。ぜひご覧ください。

財団ホームページ <http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/>

財団Facebook <https://www.facebook.com/hitachi.kankyo>

YouTube <https://www.youtube.com/user/hitachikankyo>

NATIONAL ENERGY GLOBE AWARD JAPAN 2014

エネルギー自立可能な電動超小型モビリティシステムの実証(ソーラーカーチーム プロミネンス)

当財団の環境NPO助成の受領団体であるソーラーカーチーム・プロミネンスの「PCD (Prominence Commuting Device): 超小型モビリティシステム」が、エネルギーグロブ賞:ENERGY GLOBE Award 2014の国別賞を受賞しました。

本賞は1999年にオーストラリアで創設された、優れた環境プロジェクトに授与される国際環境賞で、EARTH、FIRE、WATER、AIR、YOUTHの5部門のほか、世界各国の国別賞があります。写真は、5月22日に東京港区のオーストラリア大使館・商務参事官公邸で開催された、国別賞(日本賞)の表彰式の様子です。(左: マルティン・グラッツ前参事官、右: プロミネンス 宮村智也代表) 詳しくは下記のウェブサイトをご覧ください。また、技術の詳細は10月発行の「季刊 環境研究」175号に掲載の論文をご覧ください。



ENERGY GLOBE Awardウェブサイト <http://www.energyglobe.info/>

国別賞(日本賞)紹介ページ <http://www.energyglobe.info/japan2014?cl=english>

日立国際奨学財団

●夏季研修旅行で島根県に

日立スカラーシップ・プログラムでは、日本の大学院課程での就学支援のみならず、機会あるごとに日本の自然や文化に触れ、また、日本の社会や産業などを理解するための行事を行っています。今年の夏季旅行で、滞日中の奨学生のうち15名(3名欠席)が財団スタッフと共に島根県を訪問しました。水の都、松江の堀川。松江のシンボル、松江城。神々の国、出雲にそそり立つ出雲大社。そして、日本最古の歴史と伝統を持つ製鉄技術を受け継ぎ近代の設備・技術で鋼の製造を行っている日立金属安来工場を見学し、現代に息づく伝統技術の素晴らしさに奨学生一同、感銘を受けました。奨学生からは、島根の伝統文化や伝統産業に触れることで、日本固有の伝統や文化に理解を深めることができ、とても有意義であったという感想が多く寄せられました。



日立金属安来工場見学



日本刀の重みを体験(和銅博物館)



松江城見学



松江の歴史や文化の説明に聞き入る奨学生(松江城)

●タイにおける日立の基礎技術研修に日立リサーチフェローが講師として協力

~2012年度日立リサーチフェロー キングモンク工科大学トンプリ校 准教授 アナック・カンタチャワナ氏からの寄稿~

日立総合技術研修所がこれまで日本から講師を招聘して実施していたタイ現地法人の若手エンジニア向けの基礎技術講座(日立アジア(タイランド)主催)に、タイの大学から講師を派遣できないかとお話を、お世話になった日立国際奨学財団から打診されました。

日立が工場のエンジニアに基礎的な技術知識を習得させることで、レベルの高い製品作りを実現しようという取り組みに大変感銘を受け、私自らも講師をお引き受けすることにしました。日立国際奨学財団のプログラムに参加したことで、

日立との関係がさまざまなところで生まれ、発展してゆくことを心から望んでいます。



日立総合技術研修会で講義するカンタチャワナ先生

小平記念日立教育振興財団

●平成26年度 第42回小平記念教育資金贈呈式(7月2日)

昭和48年にスタートした「小平記念教育資金」は、茨城県教育庁のご協力のもと、「創造性豊かな児童・生徒を育て、教職員が教育成果を継続していける学校」に表彰しています。賞品は30万円相当の日立製品などを贈呈しました。

No.	部門	学校名
1	学力向上の推進	取手市立 井野小学校
2	科学技術教育の推進	水戸市立 三の丸小学校
3	環境教育の推進	鉾田市立 旭北小学校
4	国際理解教育の推進	日立市立 中里小学校
5	心の教育の推進	筑西市立 下館中学校

日立みらい財団

●第37回竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会

茨城県日立市の小学生が所属するスポーツ団体を対象とした「竹内亀次郎記念杯日立市少年少女スポーツ育成大会」を日立市体育協会と日立市スポーツ少年団本部の共催で8月23日・24日に開催しました。スポーツを通じて少年少女の健全な心身の育成と友情や連帯感を育てることを目的としており、野球・バレーボール・ミニバスケットボール・サッカー・バドミントンの75チーム、983名の小学生が、各会場で力強い対戦を繰り広げ観客から熱い声援を受けていました。



イベント情報

小平記念日立教育振興財団

第25回 駒井メモリアル 家庭教育シンポジウム開催のお知らせ

開催日時：2014年11月8日(土) 13:00～
 テーマ：『子育ての変貌と次世代育成支援—思春期臨床と親支援プログラムの実践から親準備性を考える—』
 基調講演：原田 正文 氏 (大阪人間科学大学大学院副学長・NPO法人「こころの子育てインターねっと関西」代表)
 会場：東お茶の水ビル2階 (下記地図を参照ください)
 定員：300名 (参加無料)
 申し込み：当財団のホームページのシンポジウム申し込み用紙をご覧ください。

財団ホームページ <http://www.hitachi-zaidan.org/mirai/index.html>

日立みらい財団

第1回「犯罪と非行」誌創刊45周年記念シンポジウムのお知らせ

開催日時：2014年11月29日(土) 13:15～
 テーマ：地域における子どもの安全
 会場：東お茶の水ビル2階 (下記地図を参照ください)
 定員：300名 (参加無料)
 申し込み：当財団のホームページのシンポジウム申し込み用紙をご覧ください。

財団ホームページ <http://www.hitachi-zaidan.org/mirai/index.html>

日立環境財団

第4回 環境NPO助成活動報告会開催のお知らせ

開催日時：2014年12月6日(土) 13:00～
 会場：東お茶の水ビル2階 (下記地図を参照ください)
 プログラム：
 ◆受領団体による活動発表 (12団体、各15分)
 地域社会・経済、学生による取り組み、科学技術、海外での活動など、さまざまな視点からの環境への取り組みを紹介します。
 ◆交流会 (立食)
 意見交換や資金調達の相談など、ネットワークづくりの場としてお気軽にご参加ください。
 申し込み：10月1日より参加受付を開始します。詳しくは財団ホームページをご覧ください。

財団ホームページ <http://www.hitachi-zaidan.org/kankyo/>

基調講演

「次世代を担う子どもを育てる」 片山 右京 氏 (元F1ドライバー) プロ自転車チームの監督のほか、「チャレンジスクール」の校長として「頑張る事」「諦めない事」の大切さを子ども達に伝えたい。

シンポジウム

「現代社会における子どもの保護」 司会 守山 正 氏 (拓殖大学) 子どもの安全のあり方について、歴史的な流れや諸外国の例なども参考に、その意味を考える。

「子どもの「自分を守る力」を育むために」

宮田 美恵子 氏 (日本こどもの安全教育総合研究所) 倉敷での小学生誘拐監禁事件を例に、子どもの防犯力の観点から、地域の安全確保対策と教育のあり方を問う。

「インターネットから子どもを守る」 舟生 岳夫 氏 (セコムIS研究所) ネット犯罪の急速な広がりの中、子どもが安全に安心してネットやスマホとつきあう方法を示したい。

「子どもを非行に走らせない～地域参加活動の重要性」

小林 寿一 氏 (科学警察研究所) 子どもの規範意識を高め、非行の未然防止と健全育成に効果的な地域活動のあり方を提示する。

会場案内

上記のイベントを開催する会場のご案内です。会場への直接のお問い合わせはご遠慮ください。

東お茶の水ビル2階
 〒101-0063
 東京都千代田区神田淡路町2-29
 (JRお茶の水駅から徒歩3分)



編集後記

今回のニュースレターでは、今年で設立47年目の日立みらい財団の機関誌「犯罪と非行」、昭和44年8月発行の創刊号の想いを掲載しました。関係者の方々からのご指摘で誌名を軟らかいタイトルに変えることも検討する文章が文末にありましたが、歴代の編集長がこの誌名を継続させたことに敬意を表したいと思います。財団創設者の竹内氏の当時の思いが今日まで繋がっていることを感じます。竹内氏は100歳までの23年間理事長を務めました。

9月末に「犯罪と非行」178号を発行します。目次をホームページでも紹介いたしますのでご覧ください。イベント情報では、今後開催する3つの財団のシンポジウムのご案内を掲載いたしました。是非ご参加いただければと思います。



本ニュースレターに関するご意見・ご感想等がございましたら、財団までお寄せください。お待ちしております。

公益財団法人 小平記念日立教育振興財団
 公益財団法人 倉田記念日立科学技術財団
 公益財団法人 日立環境財団
 公益財団法人 日立国際奨学財団
 公益財団法人 日立みらい財団
 日立ファウンデーション(米国)

✉ odairakinen@hdq.hitachi.co.jp
 ✉ kurata@hdq.hitachi.co.jp
 ✉ kankyo@hdq.hitachi.co.jp
 ✉ scholarship@hdq.hitachi.co.jp
 ✉ mirai@hdq.hitachi.co.jp
 ✉ shakai.koken.qm@hitachi.com

TEL 03-5221-6675
 TEL 03-5221-6678
 TEL 03-5221-6677
 TEL 03-5221-6679
 TEL 03-5221-6675
 TEL 03-4235-5801

*日立ファウンデーションについてのお問い合わせは(株)日立製作所 CSR・環境戦略本部・社会貢献部まで。

所在地 〒100-8220 東京都千代田区丸の内一丁目6番1号 丸の内センタービル12階

FAX 03-5221-6680

財団ホームページ ▶▶▶ www.hitachi-zaidan.org

人を育み 未来へ繋ぐ



日立グループの社会貢献活動

発行日:2014年9月25日発行
 発行責任者:神山 和也
 編集責任者:寺村 奈津季
 印刷:(株)日立ドキュメントソリューションズ